大阪市立大学大学院　都市系専攻
修士論文概要集 2013 年 2 月

山間部における学校統廃合が地域力に与える影響に関する研究

A study on the influence of the consolidation of schools in mountainous regions for community empowerment

建築計画分野　　豊住　由貴

本稿は、学校統廃合が全国的に進展する中で、統廃合が行われた地域の文化的・社会的な資源やコミュニティのまとまり・活動、地域に対する住民自身の関心・愛着などがどのように変化したのかを明らかにすることを目的としている。統廃合の行われた地域住民へのヒアリング調査を通して、これまで一般論として語られてきた学校統廃合による地域力の変容を明らかにしており、過疎化社会において重要な示唆を与えるものと考えられる。

This study aims to unfold how the subject area's cultural and social resources, its coherence within the community, and the interest and attachment of its residents changed in the midst of nationwide progressing mass school integration. Through conducting resident survey in the subject area, it reconfirms the general theory about the transition of the community empowerment due to the integration of its school, and could be thought of as an important indication to the depopulation agenda.

1.研究の背景と目的

市町村の合併や少子化に伴い、児童数の減少による学校統廃合が全国的に進行している。近年では過疎化地域だけでなく、都心部でも学校統廃合は増加し続けている。幼い子供とその若い両親が地域の行事に活気を与えたり、集会を行う場所を提供したりと、小学校は特に山間部等の過疎地域では地域の中心的存在である。また、幼少期の多くの時間を過ごした学校は住民にとっては昔を懐かしく思い出す、記憶の媒体のような役割も果たしている。地域コミュニティの持続が問われる中で学校統廃合はその地域にとって大きな課題となる。学校が小規模化すると、大人数による授業が出来ない為に子どもの社会性や競争心が育たないこと、クラブ活動などが成り立ちにくいこと、学校行事の盛り上がりに欠けることなどが一般に問題として指摘されている。

本研究では、小学校の学校統廃合の行われた山間部の地域を対象として、地域の資源・活動・人々の関わりや愛着が学校統廃合によってどのように変容していったのかを見出す。また、小規模校・過疎化地域での育児・教育の実態を明らかにする。これらを踏まえて学校統廃合が地域力に与える影響を実証的に明らかにすることを目的とする。

2.研究の位置付け

学校統廃合については様々な視点で多くの研究が行われているが、学校統廃合が行われた地域がどのように変容したのか、地域を主体とした視点で記述している研究はほとんどない。本研究は閉校以前から学校と密接な関係を築いてきた地域がどのように統廃合を契機に変容し、現在に至っているのかを緻密に見ていくことに特徴があり、独自性がある。

3.地域力の定義

本研究では統廃合前後での地域の変化を「地域力」という視点を措定して解明する。地域力という言葉は宮西悠司が提唱した言葉であり、阪神淡路大震災の際に災害に強い地域を形成する上での原動力として注目された。地域力という言葉は様々な分野で定義されるようになったが、ここでは「地域住民が生活における問題を共同で解決する為の力」とする。

4.調査概要

調査対象は、大阪府・京都府・奈良県・和歌山県の山間部で学校統廃合もしくは小学校の休校の行われた旧校区である。閉校前から現在に至る地域コミュニティの概要、校舎利活用、自治体活動や祭礼等の実態などをヒアリング調査する。更に調査対象の人口推移のデータを活用し､廃校前後での人口の変動を比較する。ヒアリング調査の対象は、①旧校区の自治組織の会長や、②旧校区の地域住民、③各市町村の役場、④地域住民以外の跡地活用に関係している団体④元学校関係者・教育委員会である。

5.調査対象の概要

5.1 調査対象の分類　旧校区内居住人口や閉校後年数、廃校活用の有無とその程度などによって調査対象を分類した(表 1)。これは、それぞれの特性によって統廃合後の地域力の変容に影響を与える要因の判断材料として整理しておくことが狙いである。

□地域会館の有無　地域（旧校区）に地域住民の各種団体サークル活動や会合を行う場所がある場合、住民が集まる場所があらかじめ学校外にあるため学校開放におけるグラウンドや体育館の利用に留まる場合が多い。一方、そのような会合を行う場所が無い場合ではグラウンドや講堂での活動と共に会合の場も学校内に存在することで地域と学校の関係は強いものとみられる。こうした違いによって、学校への親密性に相違が発生し､学校と地域の関係に影響があると考えられる。

5.2 調査対象の属性　全体的に少子化が進行し家族構成も子供の数が少なくなっており、住民の高齢化も進んでいる。いずれも山間部に位置していることから、主な産業は林業や起伏を利用した農業を行ってきた。少子高齢化の進行と共に後継者不足が深刻化している。

5.3 統合までのプロセス　全ての旧小学校校区において、学校統廃合の主な原因は児童数の減少による学校の小規模化である。統合の直前では児童数が 1 桁まで減少する学校もあった。各調査対象の学校統廃合は、教育委員会側からの提案（調査対象 A・B・D)、もしくは住民からの申し立て（調査対象 C）によって検討・話し合いが行われている。地域住民の中には地域の学校を無くすことへの反対意見を述べる者も現れたが、最終的には現役で子育てを行っている保護者自身の主張を尊重する形で地域住民を説得し、統合へ至っている。

6.閉校前後での地域力の変容

6.1「地域力」の評価における 6 つの評価軸　本研究では「地域力」を評価するにあたって、6 つの評価軸を設定し、それぞれの分析を行っている。①学区内居住人口の推移②自治組織活動③祭礼等の文化的資源④人材・活動等の地域資源⑤コミュニティに所属する人間の関わりの度合い⑥地域への関心・愛着、以上 6 つの評価軸を設定した。

①については各市町村の統計データを利用し、旧校区内の人口推移や児童数の変遷から、学校統廃合前後での人口の変動を分析する。②～⑥については住民や関係する組織（自治組織・古典芸能保存会・元学校関係者）にヒアリングを行い、各項目の統廃合前後での変容の分析を行う。

表 1　調査対象の位置付け

	居住人口 多/少	廃校活用	地域会館 有/無	閉校後年数
A Tk	少	○	無	7 年
B Nk	多	○	有	5 年
C Bs	少	△	有	5 年
D Ng	多	△	無	3 年
E Ys	少	×	有	0 年

表 2　調査対象概要

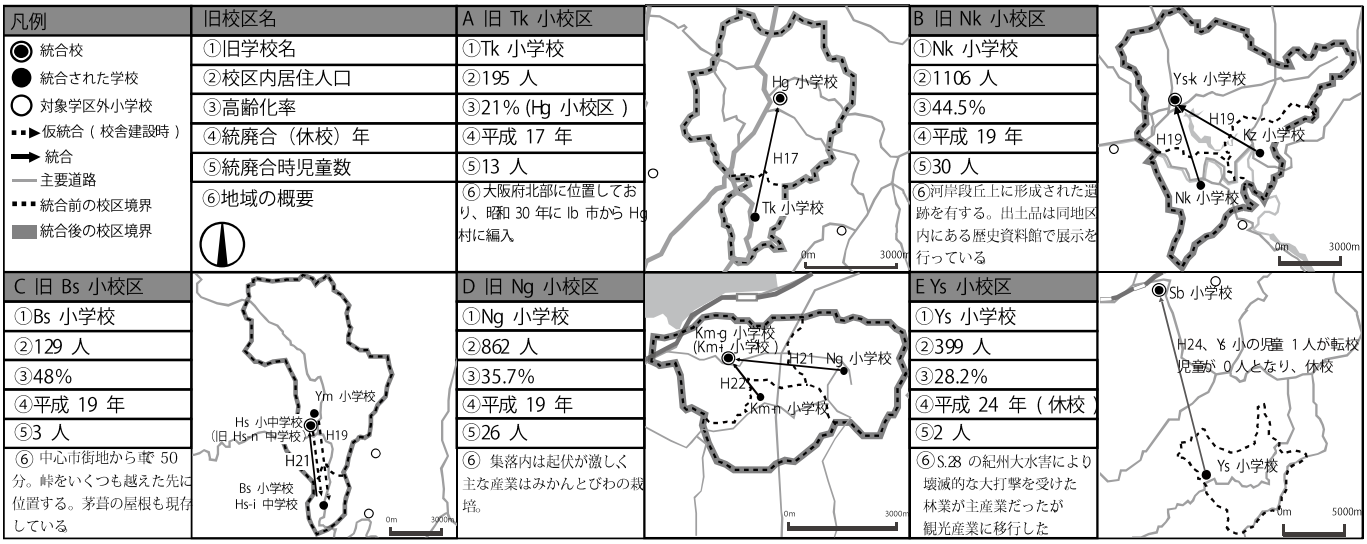

表 3　統合までのプロセス

A 旧Tk小校区	B 旧Ns 小校区	C 旧Bs 小校区	D 旧Ng 小校区	EYs 小校区
H15.08 保護者との話し合い 16.08 閉校記念事業実行委員発足 16.09 議会で学校設置条例の変更可決 17.03 Tk 小学校閉校 17.04 Hg 小学校へ統合 21 校舎を改修 Tk コミュニティセンター設立	H15.03 Ys 町立 Ry 小学校閉校 Ys 町立 N-Ry 小学校閉校 19.03 Nk 小学校閉校 19.04 Kz 小学校と共に Ys-k 小学校へ統合 22.04 Ys 町と財団が協力し、宿泊施設に改装。Ys-M 野外学校設立	H9 Bs 学校存続委員会設立 17.08 子育て教育部会より学校統合についての提案 17.10 学校統合プラン説明会を開催 17.12 市教委へ学校統合要望書を提出 19.03 Bs 小学校閉校 19.04 Ys 小・Hs-i 中・Hs-n 中と共に花脊小中学校として設立	H 15 「Sb 町立幼稚園・小中学校適正配置検討委員会」を設置 16.09 「Sb 町立学校適正審議会」設置 18.08 「Sb 町区域における将来の学校の在り方について」の説明会開催 20.03 第 1 回 Ng・Km 地区小学校適正配置推進協議会を開催 21.03 Ng 小学校閉校	H23.03 Ys 小学校休校 23.10 休校中の校舎を利用して民芸大会開催 25.04 休校解除予定

6.2 学区内居住人口と児童数の変遷　人口減少は廃校以前から全ての学区で発生している。廃校前後での変化を見ると、C、D の旧小学校校区で廃校以前よりも大きな人口の減少が発生している(図 1)。D 小校区では廃校直後の平成 21 年の転出者が例年よりも増加している(表 4)。

統合前後での児童数の変化を見ると、統合された小学校の児童数と統合先の小学校の児童数を足した数よりも統合後の児童数が少ないが、これは統合前年の卒業生が多かったことなどが関係しており、学校統廃合が行われても、旧校区の多くの児童はそのまま統合先の小学校へ通っていることを示している。以上より、学校統廃合が行われると統合校区全体では児童数の極端な減少は発生しないが、旧校区から人口が流出していると考えられる。

6.3 自治組織活動　各調査対象の自治組織の活動は、清掃から古紙・廃品回収、道路、山の整備といった作業から、祭りや行事の準備、また住民の生活を支える活動を行っている。過疎化が進行した校区の運動会は、地域側がその準備から競技への参加まで全力でバックアップを行う事で成り立っており(表 5[3])、自治組織がほとんどのケースでこれに絡んでいる。運動会の機会に自治会、老人会、婦人会、青年団が一度に集まり一つの事柄を成し遂げることは地域の活力や、住民の結束力の維持に大きな影響を与えている。しかし、学校の統廃合を機にその規模が縮小し、E 小校区の場合では運動会が消滅してしまっている。このことを寂しがり、喪失感を覚える意見も多く、学校統廃合に伴う運動会をはじめとする学校行事の消滅は、自治会組織の活動に大きな影響を与えているといえる。

6.4 祭礼等の文化的資源　都市化が進んでおらず昔から神社や宗教などの文化的資源を大切にしてきた地域では、現在も神輿を担いだり、神楽や獅子舞を奉納する祭りを毎年行っている。獅子舞や神輿を担ぐのには若者の力が必要となるが、全ての対象地域で少子高齢化が深刻な問題化しており、神輿を担ぐのを数年に 1 度に変更したり、毎年同じ日に行っていた祭りを、地域外住民が帰ってきやすいように週末へ変更したり、昔は厳しい条件をクリアした者だけが行う事の出来た伝統芸能の奉納をほとんどどんな人でも行う事が出来るようなレベルまで条件を低くすることで、存続・保全を行っている(表 6[7]～[9])。学校統廃合でより強く影響を受けたのは祭礼以外のその他の文化的資源である。具体的には旧校区の地域に伝わっている歌や踊り、伝統的な衣装である。これらの地域独自の文化資源は学校行事を通して継承されてきた。学校が統廃合されることで、地域独自の文化資源を披露する場所、機会を失ってしまった(表 6[10]～[12])。

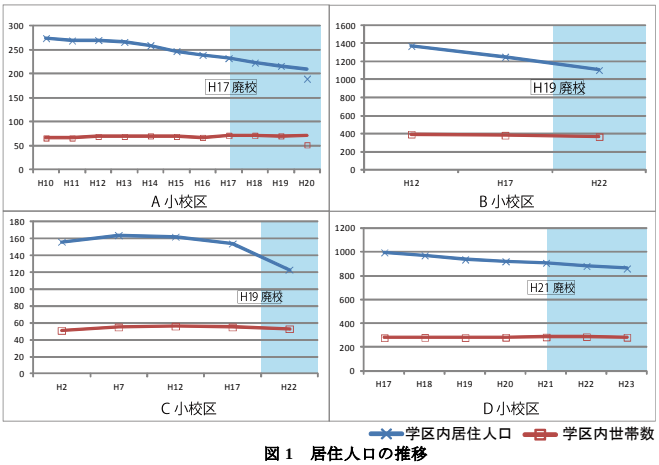

図 1　居住人口の推移

表 4　旧 D 小校区の人口推移

		H18	H19	H20	H21	H22	H23
旧 D 小校区	人口	973	939	922	910	882	862
	世帯数	283	282	285	287	290	285
	出生者	4	3	3	2	1	3
	転入者	10	3	4	12	5	12
	転出者	22	19	8	23	16	9
	増減		-34	-17	-12	-28	-20

表 5　自治組織活動の変容

運動会―廃校前	
[1]	運動会で言うと、基本的に運動会は学校の運動会と地域の運動会を一緒になってやってるんですよ。その時に、大体交互に競技をやっていくんです。小中学生やったら、地域の人が徒競走やって、でその次に玉入れやったら地区の人が玉入れする。…で、ほとんど交互でやってて、それで勿論上の町と下の町で別れて、対抗戦があるんですよ。で、子どもたちは自分たちの班分けがあるんですけど、その班分けに関係なく、上の町に住んでるから上の町応援するとか、下の町に住んでるから下の町を応援するとかもありますし。
[2]	まぁでも、行けんでも、音楽が流れてくるさかい、なぁ。分かってるみたい。聞こえなくても、向こうの山から、練習風景が見えるとかね。太鼓も叩いたりいろいろしてたもんで。やってるやってるっていうのは言ってた一人暮らしのおばあさんもおるけどね。やっちゃるねっていって、いつも行くんやよって言うて。それがやっぱりもう、見れんとなると、寂しいねって。
[3]	住民 A:自分の子どもが学校いてる時はね、顔出ししてたし、ここは小学校自分の子どもじゃなくてもね、運動会とか言うのは地域ぐるみの運動会だったんで。 住民 B:消防と、婦人会と、老人会、自治会、 住民 C:全部がそう。
運動会―廃校後	
[4]	場所は学校の場所を借りて。ただもう、運動場自体も使ってないんで草生え放題だったり、準備とかも一手間二手間増えるし。で、綱引きしようとして綱が無いよ、とか言うのは。やっぱり今まであったものが無くなって。それはやっぱり不便だと思いますね。(中略) 参加する世代が段々上がっていってて。昔からお年寄りの方も。杖ついて歩いてた人が杖ほっぽり出して走るぐらいの。そんな地域だったんですけど。それを、やっぱり子どもたちが、「あそこのおばあちゃん走ってはるわ」っていうのを嬉しそうに見てくれるっていうのは減りますね。子どもたちがやっぱり減って。だから大きい声を出す子が減って。だから賑わい自体やっぱり下がる面もありますし。で、競技も単純計算で言ったら半分じゃないですか、時間も短くなりますし。
[5]	一番皆に寂しいなって言われるのは運動会です。運動会はここの神社が併設なので、神社の秋祭りを地域の人も加わって貰って、小学校主体でやってたんですけどそれも小学校ももうないし、運動会を幼稚園だけで出来るかって言われたら幼稚園も 2 人なんで、地域との関わりは今年は余計に…
統合先の運動会	
[6]	自治会員とかは呼ばれるけど運動会に来てちょうだいとかね。一般の人は呼ばれない…役員さんだけやね。遠いからね。自分の子どもとか孫とかがいってたらね。同じ豊能町内やからね、気持ちは一緒。ここはあんまり出ていく人少ないけど、向こうの人はだいたいね。子どもさんがいてたらおじいさんおばあさんも含めてね、行きますね。

表 6　祭礼・文化的資源の変容

祭礼等の文化資源が受ける影響	
[7]	御神楽とかは毎年やるけど、お祭りの日には 2 回御神楽。せやけど、太鼓は…もう乗り手やらかき手の不足やな。それが関わってくるのが今言ってる廃校に繋がってくるわけですよ。と言うのは、若い人たちが居なくなるから。子どもさんがいなくなるでしょ。そうすると乗り子がなくなると言うか。関連と言うかな。
[8]	これはね、今まで毎年ずっとやってんけど、もう人手がのうてね、もう 3 年に 1 ぺんのようにしてますねんけど、また、地元の子どもさんが居れへんねや。乗り手が。そやけど、もう他所へ嫁いだ人の子ども、今までやったら男の子ばっかりやったんだけども、男も女ももうないと言うて、乗ってもらってこないずっとな。うん。
[9]	神輿はあるんですよ。担ぐんですよ。昔なんて元気にあっちこっち走り回っとったけど、いまや歩いてるわ。場合によったらね軽トラに乗せてね。ひっぱる手がない。変わってきたなー。時代の流れは仕方無いけどなー。
[10]	ここには古典芸能って言うのがあるんですよ。御田の舞とか、仏の舞。古典芸能保存会って言うのがあって。それを小学生が学習発表会でする時には、役場でいってたし、私は保存会の会員でもあったさかいに、小学校中学校行って、そういう、古典芸能の指導をしたような。
その他の文化資源が受ける影響	
[11]	小学校ではそんな盆踊りとかそういうようなことはしませんでしたけど。中荘音頭っていうのがあるんですよ。それはずっと私たちの子どもの頃から宮滝音頭っていうのは運動会の時は必ず流して。地域の人たちも踊るし、地蔵盆踊るしっといったかんじでしたね。(今は、宮滝音頭は聴く機会は)ないですね。
[12]	文化祭は基本的にほとんどが学校のプログラムで進んでいくんですけど。その中に、PTA の方が劇をしてくれたり、あとは地域のお年寄りの方々が踊りを踊ってくれはったりとか。で、そういうのが一切なくなって。そしたら、そのここの地域だけの踊り方とか衣装とかが何パターンもあったりして。それを見る機会も減るんですよね。子どもたちに、ここの地域にはこういうものがあるんだよっていうのを伝えにくくなってるって言うのもありますよね。

6.5 人材・活動等の地域資源　学校が統廃合されることで学校関係者が地域から姿を消す。加えて、学校の無い地域には新たな子育て世代の家族が転入する確率は低く、学校の統廃合をきっかけとして今後の生産年齢人口の増加の可能性は廃校以前よりも格段に低くなる。一方、地域の活動資源は、C 小校区の住民が学校統廃合を機に「このままではいけない」と感じ、自主的に文化的資源を保存していく団体を結成するなど、廃校を機に増加したものもある(表 7[15])。

6.6 コミュニティに所属する人間の関わりの度合い　過疎化した地域では昼夜問わず外を出歩く人間にはほとんど出会わない。住民同士も普段の生活の中で近所の人間や、地域内の知り合いに会う機会がほとんど無い。学校には他の地域行事と比較して馴染みやすさ、親密性が宿っている。学校行事へ参加することは住民にとってハードルが低く、参加することが当然であると言う意識を多くの住民が持っている。住民が集まる学校行事は、普段会う事のない地域の端と端に住む住民間の貴重なコミュニケーションの場としての機能を果たしていた(表 8[16])。また、授業の一環として地域住民を講師に招く、小学生が直接見学に行くなど学校が上手く地域を活用している地域では、それだけ住民同士が出会う機会も多かった(表 8[17])。

6.7 地域への関心・愛着　学校は地域住民と地域の繋がりの間を取り持ち、媒介となって地域と住民を繋げていた。廃校以前に学校と地域が深く関わっていた度合いが大きい程、廃校後、地域住民の感じる喪失感は大きく、地域に対する諦めの意識を発生させている(表 8[19][20])。また「地域の学校」の消滅は、結果的に地域との繋がりを希薄にする(図 2)。

7.地域力の変容に影響を与える要素

7.1 集落の規模・学校との距離　居住者人口規模が小さく、１つの町がそのまま校区になっていた地域では住民の学校への関心が強く、多くの住民が小学校を地域のシンボルとして位置付けている。チャイムの音や運動会の練習、生活道路沿いに見える学校の様子など、日常生活の中で学校や児童の存在を無意識に認識しており、廃校となった時により多くの変化と喪失感を覚えている(表 9[21][22])。このような地域では、学校が廃校となった後も、運動会に積極的に参加することで行事の盛り上がりを持続させようとしたり、地域独自の文化を継承して行く目的で団体を発足したりするなど、積極的な地域参加がみられる。

一方、居住者人口規模が大きく、校区がいくつかの町で構成されていた地域では、住民の学校への関心・意識にばらつきがある。校区が７つの大字から構成されている B 小校区では、自宅が学校のすぐ近くにあった住民と学校から遠く離れた場所に住んでいる住民とでは、学校への関心に差がある(表 9[24][25])。このような地域では学校の持つ求心力、すなわち住民を結束させる力が弱く、地域の中で失われていく文化を存続させようとする活動も確認できていない。

表 7　活動等の地域資源の変容

廃校によって影響を受けた地域活動	
[13]	最初、学校の行事と合わせて日にちも決めたりとか、学校の育友会とか子どもたちも一緒にその、やってたんだけど、学校が統廃合して学校があっち行ってしまったら、どうしようて話になったりとか、で、その上がった収益を、子どもたちのスキー研修のリフト代にしようとか、そういう資金を集めるような位置付けもあってやったらしいんだけど。段々こう、主旨がどこへ行ってしまうようなことがあったりして。
児童の減少・廃校によって新たに発生した活動	
[14]	この地域が初めて、学校を存続しようと言う存続委員会と言うものを、俺が会長でずっとやってた。（中略）そら、新し家のあるところ皆、そうや、あの、藤井、物部以外の名字が付いてるところ以外は、皆そうや。ほんで、U ターンもあったわな。皆 U ターンやんか。
[15]	今年地域に居る僕とかその、今で言うとＯＢ世代の人らが集まって、そのお年寄りたちに出来るだけしゃべってもらって。例えばボイスレコーダーで録音したりだとか、ビデオで撮影したりとか。それで色んな人に知ってもらおうっていう企画をやっていて。そこで初めて、あ、こういうことがあったんやなって知ることもあったりして。

表 8　コミュニティ・地域への関心・愛着への影響

学校行事が繋いでいた地域コミュニティ	
[16]	学校の行事に、地域の方々が色々なことに参加していたんです。例えば、運動会とか文化祭とか。それが、一気に減ったんですよね。例えば、僕は上の方…端の方に住んでで、そういう人って、なかなか反対側に住んでる方としゃべる機会って、そんなに無いんですよね。で、そういうのが学校の行事を通して、例えば子どもたちの文化祭の時にＰＴＡで出し物をするとか…そういうのも無くなって。まぁ、その、上と下での交流する機会が減ったりとか。（中略）行事の回数自体は凄く減っているので、交流する機会も減って。昔と比べたら話す機会も減ったりもありますね。
[17]	地域の学習として、そこに傘屋さんがあったんですよ、有名な。有名と言うかそれこそ手作りで。大きな赤い傘を作ったりね。そんな方が居たはったからその方のお仕事を見せてもらったり、そこに味噌醤油屋さんがあったからそこを見学に行かして貰ったりっていうのは、だから地域と一緒に学ぶというのんで、もっと前からも、出て行って、学んでってましたね。だから、特別な何かっていうのはないけど。必要とする方を講師に招いたり、出て行って、稲の作り方を教えてもらったりっていうのは。
統合校への関心の低さ	
[18]	ほんであの、ここで学校あった時でしたらその、PTA 外の活動でもほら、今やったらほら、廃品回収とかやってるらしいんです、続いてね。でもここでなくなったらもう、別に協力するのもなんか、向こうの学校だったらあんまり知らんわっていう感じでね、しなくなってね。やっぱり、子どもとかがいってたなあって言うたらちょっと協力しようかあって感じやけども。今の学校になって全然もうね
地域に対する不安・諦めの意識	
[19]	もう、（廃校）になってしまったら、どうしようもないし…もう廃校になってしまったから、どうしようもありません。する前だったらね…何とかなっただろうけど。
[20]	年寄りばっかりなったらね、もうだんだん、集落がなくなっていくん違うかなあって、そういうのは思いますね。子どもの姿が見れへんし、子どもがおれへんって言うことは、若い人が居れへんって言うことやからね。働き手の若い人がいないから、子どもが居れへんていうことやから。そんなんで、この宮滝がいけるんかなあって思ったりね。

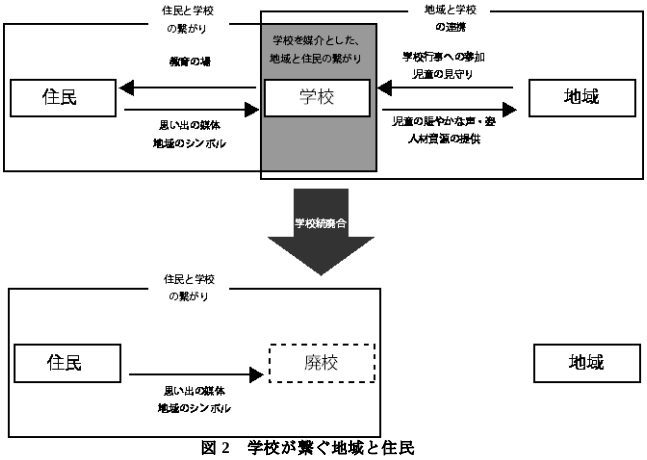

図 2　学校が繋ぐ地域と住民

表 9　集落の規模・学校との距離

学校との距離による意識の差	
[21]	（朝は学校に集まるんですか)そうです。はい、早かったら遊んだりよ。それは賑やかだけど…まあ音楽聞こえてきたりね、運動会とかあったらもう練習あったらやかましかったりで…そんなんでまあ、ちょっと静かになったっちゅう感じやな。
[22]	ここら辺は子どもさんの姿も段々…いないから、子どもが遊んでいる姿が全然ね、見ないから。今までだったらチャイムの音が間近に聞こえてるし、子どもたちの運動会になれば運動会の曲で流れてる音楽が聞こえてるし、ということでその元気を貰えてたん違いますかしら。
[23]	住民 C：私のとこは学校から離れてるから…その声が聞こえなくなったとかはあんまり感じひんね。 住見 D：私のところはな、朝起きてあれしたらもうね、子どもの聞こえてたから凄い寂しなりましたけどね。 住民 C：声の聞こえるけど、そんなにね、見えへんかうっちらは… 住見 D:もうなんか、さみしい…なんか。もうな、集落が段々寂しくなるなあって。
同世代の母親の意見の相違	
[24]	で、ここにもともとあった小学校ってねここからだったすごく遠いんですよ、歩いて。1 番端っこくらいになるので、今バス通学で安心と言うか…その、長いこと歩いて、田舎やけどやっぱり家もないとこも通るし、とかそういうこと思ったら、通学の面ではまあ安心かなあとか、思ったんですけど。（学校が廃校になって感じた変化は）それは寂しいんと違いますかね。なんかこう、でも自分の子どもに関しては、合併になるって思ってずっと来てたから、そういうもんと思って受け入れてるけど…。
[25]	もちろんその、運動会の練習の音とか、学校のチャイムとか…その何でもないことが、今もう全然ないので。(中略)まあでも不安の方が多かったね。この学校どうなるんやろう。壊されていくんやろうかとか。子どもがまた増えたら使ってくれるんやろうかとか…そういう、廃校になって良いと思ったことは無かったですね。不安の面が。

7.2 廃校後の時間経過　廃校直後に地域に訪れる変化が廃校の一次的影響である。これは、前節で明らかにした地域力の 6 つの評価軸への影響である。

廃校直後は学校が無くなったことを強く実感しており、地域への関心も一時的に高まる。しかし、時間の経過と共に住民の意識の中から学校統廃合当時の強い焦燥感や喪失感は徐々に失われていく。A 小学校の廃校は平成 17 年に行われた。廃校から 7 年経過した現在では、地域の期待を背負って設立した廃校利用施設、高山コミュニティセンターの存続について、地域の意見が二分している(表 10[26])。

廃校の二次的影響は、廃校の一次的影響から発生する問題や、新たな活動である。E 小学校校区の運動会は無くなってしまったが、運動会の代わりに住民がカラオケや踊りを披露する民芸大会へと行事が変容したり、以前は公民館で行っていた自治組織の活動場所が廃校利用施設へ移動したりしている。廃校後しばらくして住民が地域力の低下を感じ取り、文化の保全活動を開始する動きもある。これも廃校の二次的影響といえる。

7.3 廃校活用の有無　廃校後の校舎の活用は地域の活力に大きな影響を与える。廃校活用の主体は地域住民が行う場合と、外部の団体が参入する場合がある。

廃校以前に地域住民同士で学校を通じたコミュニケーションをとっていることは、その後の活用方法・活用の有無に影響を与える。廃校活用を訴える住民には、廃校以前から使用していたのだから廃校後も勿論使いたいといった継続の意志や、日常的に活用する事で校舎に対する愛着がより深まり、どんな形であろうと保全・活用を行い廃れさせるようなことはしたくないと言う場所への愛着の意志が働いている。

また、旧小校学校校区に沢山の人を収容することのできる地域会館が他に無かった A 小校区は、廃校後老人会の総会や生活改善グループの活動など、以前は別の場所で行われていた活動を廃校活用施設へ場所を移している(図 5)。

廃校後の校舎の活用も地域住民のこうした学校への意識に配慮し、活用段階では住民が主体的に関わっていけるような仕組みを作っている B 小校区の廃校活用団体の活動は地域住民にも好評である(表 12[27])。廃校以前から住民が活用していたグラウンドや体育館の活用に関しては、廃校の前後で変わらず活発に活用できるよう配慮されている。また、廃校活用団体の一員が担ぎ手不足で開催が危ぶまれていた秋祭りの神輿を手伝うなど(図 3)(表 12[31])、地域のコミュニティに上手く溶け込みお互いに利益をもたらし、良好な関係を築いている。

表 10　廃校後時間の経過がもたらす意識の変化

[26]	（学校跡地がコミュニティセンターになるのは住民の方にとっても嬉しいことですよね）そうなんですよ。だけどね、その意志も薄れていくよね。時間が経つとね。ほんとはそういうもののね、公共にしておきたいなっていうのを色々やってるんですよ。薄れてきてるよ。もうなかってもええやんっていう人も大半…もう半分半分やね、ぐらいになってきましたね。だからそれがいかんと言う事で私らは頑張って色々やってるんですよ。難しいですね。ありますよそんなんは。うん…。だけど、いや、ずっと残しておいて欲しいって人もいるし、やっぱり半分半分くらいやね。だから私らは残そうと言う方に入っているから色んなことをやってるわけですね。何らかの形で残そう。

表 11　廃校活用概要一覧

旧校名 (現在の名称)	廃校年	活用開始年	管理主体	主な用途
A 旧 Tk 小学校 (Tk 町立コミュニティセンター)	H17	H21	豊能町	地域施設
B 旧 Nk 小学校 (My 野外学校)	H19	H22	一般財団法人大阪府青少年活動財団	野外活動 宿泊施設
C 旧 Bs 小学校	H19	H19	野外活動団体 Bs 自治会	野外活動 地域行事
D 旧 Ng 小学校	H21	H21	Kn 市教委	会合
E Ys 小学校	H24 (休校)	H24	Kg 町教委	地域行事

図 3 B 小廃校活用団体が秋祭りに参加

図 4　D 小校舎は取り壊され駐車場に

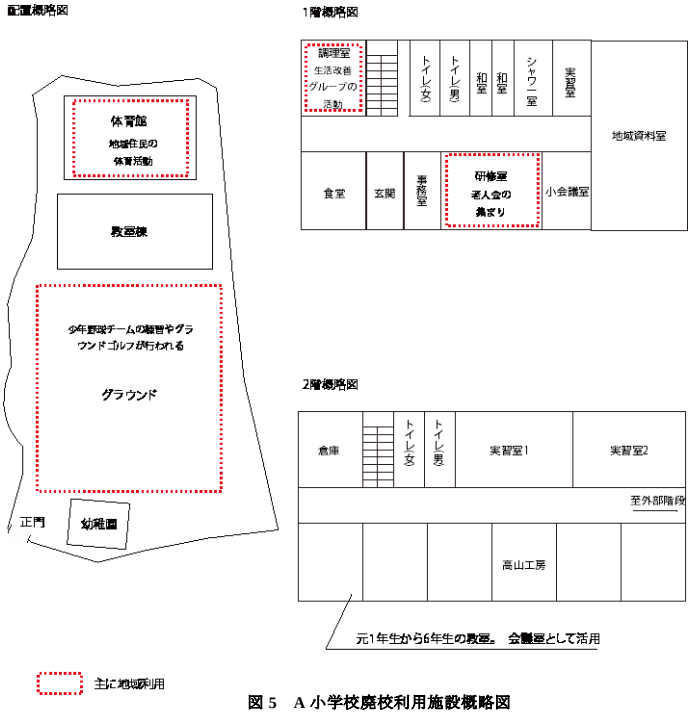

図 5　A 小学校廃校利用施設概略図

表 12　廃校活用に関するヒアリング

廃校活用―地域の意見	
[27]	使ってくれた方がいいと思いますよ。私はね。あんなとこもう真っ暗になってね、大きなところが夜真っ暗になってるのは…あんまりいいとこないしね。やっぱり夜でもあかあか電気灯ってたりね。子どもの声がわーわーしてますやんか、やっぱりそれは、ええことや思いますよ。
[28]	これはまあいいことだと思いますけど。家にだけおったら近所の人とあんまり顔合わせる事もないでしょう。
[29]	ここの地域は…学校なくなっても、この建物とか環境自体は、今後もやってくつもりで地域の人がいて。っていうのがあったんで、「最初から残しといてな」って言う話をしてて。だから自分らもそういう風に、お祭り騒ぎが大好きやから、そういうのが無くなるのは嫌やから、前もってそういうのはやめといてなって言うのを言っといたみたいです。
B 小校区活用団体と地域の関係	
[30]	運動会の話もね、最初はグラウンドだけ貸してねっていう話やった、1 年目は。で、グラウンドだけ貸してねって言われながらもこっちは、お茶の用意したり、色々お手伝いするやんか。ほんなら徐々に期待されるんやわ。今年は、集落に入ってくれって。選手として、助っ人で。綱引きするっていうたらその中に入ったり。いきなり色んなものが言われると言うよりは、徐々に。
[31]	地元民では無いんだけども、それでも気さくに声かけてもらうようになったり。祭りの後先では…あの祭りの後ではずいぶん変わった。今までも、挨拶したりすることはあったけど、あの祭りは。それは我々も意外やった。祭りに対する地元の人たちの想いは、我々以上に大きいものがああったし、神輿が担げないかもわからん、その困った度は、我々が思う以上に大きかったし、我々にしたら、ちょっと引越し手がいるからお手伝いしようかっていう軽い気持ちは、我々思ってる以上に向こうの人に取ったら、なんか救世主やったみたい。

8. 小規模校における教育・育児の実態

8.1 小規模校での児童の特性　小規模校に通う児童、特に複式学級を経験している児童は小学校の全校児童数が少ないことから「自分がやらないと、誰もやらない」状況に常に置かれていることで、行動をとる上での積極性を身につけている(表 14[32])。一方、集団行動を学ぶ機会は非常に制限されており、このことから競争力を育むことが困難だと指摘する保護者も少なくない(表 14[33][34])。このような小規模校では積極的に規模の大きな小学校や幼稚園との交流を取り入れている。交流活動によって児童間だけでなく過疎地域では孤立する恐れのある、幼い子を持つ保護者間のコミュニケーションの場としての機能も果たしている。また保護者自身も子どもの集団への適応がスムーズにできるよう、同じ中学校へ通う予定の児童が所属するスポーツチームに所属させ、入学以前から知り合いを作っておくことで、こうした小規模校でのデメリットは努力次第で十分克服できると断言している(表 15[39])。

8.2 地域住民による見守り　それぞれの地域住民は「子どもは地域の宝」と言う言葉がまさしく当てはまるような態度で児童を大切に扱っている(表 16[41])。このような暖かな見守りの中で子どもを育てたいと感じ移住してくる親子が現れるように(表 16[43])、住民同士の繋がりの希薄化した現代で、過疎化地域で子育てを行うことは複数のデメリットを十分に補う事の出来る魅力を持っている。

9.結論

「地域の学校」は地域独自の文化を守り、行事で賑わいを提供し、子どもの地域への愛着を育んできた。学校の統廃合が行われることで学校を中心に築かれてきた住民同士の繋がり・活動の歴史を脅かしている。学校統廃合は地域力の評価軸 6 項目（地域住民が共同で地域を変える事の出来る行動力の元となるもの）に影響を与えており、確実に地域力の低下を引き起こしている。一方で統廃合を契機に住民自身が地域の現状を把握し、主体的に地域の再興を目指す動きがみられる。このような働きは統合後の地域の新たな資源としての役割を果たす。

たとえ小規模校であっても、地域資源や他の学校との交流活動を積極的に採り入れ、また保護者自身も子育てを行う上で工夫を凝らしている。このような努力を行うことで児童数が少ないことが引き起こすデメリットを打ち消すことが可能である。

統廃合が行われてしまった地域でも廃校をどのように利活用するか、校舎の活用にあたって住民の学校への愛着や新密度を考慮した活用を行うことで廃校後の地域力の変容、低下の速度を緩やかにすることが可能である。

表 13　調査対象校の学級編成

校名	閉校時学級数	閉校時児童数	学級編成
A 旧 Tk 小学校	3	13	単式
B 旧 Nk 小学校	6	30	単式
C 旧 Bs 小学校	2	3	複式
D 旧 Ng 小学校	3	26	複式
E Ys 小学校	1	2	複式

表 14　小規模校における子育ての利点・問題点

小規模校が育む児童像	
[32]	積極性と言うか。一つのことをするにしても、自分が動かないと、物事が進まないということとか、人数が大きかったら、掃除当番が 10 人いてるよってなったら、自分はしなくっても、まぁ 9 人がすれば、物事は進んでいくわけじゃないですか。でも、そやったら、掃除当番 2 人しかいなくって、ってなったら自分がしなくちゃ、何事も進まないってなったら…積極性と言うかその、先生とか大人に言われたことは僕がせなあかんのやっていう、そういう事を思うっていう風には育ってると思います。大きなところに行っても…野球とか、うちの息子、野球やってるんですけどじゃあその時に、グラウンド整備せえよってなった時に、一番最初に道具を持って飛び出していくっていう風に育ててもらったのか、育ったのか分からないですけど、それは見て思うところ。まぁ、あと、あとはその、上下関係ですかね。やっぱりその、先輩は先輩、年下の子は年下の子って言う、その長いスパンで付き合える、そういうのは見ていて、扱い方とか対応の仕方とかはあぁ、分かっているなあとは思います。
[33]	やっぱり良く言われてるね、競争力。が、分かりにくいんでしょうね。無いんじゃないんでしょうけど。やってても、順番がつくわけじゃなくて。クラスに 3 人とか。おったとしたら、もうそれは順番じゃなくて、並びみたいになってしまって…そういうのは、どうなんかなぁって思います。ぁ、それって、その、小学生とか中学生で付けなあかんのかっていうことろもあるとは思う。そういうところだけをね、強調する必要はないんかなぁ。そういう事もあるんだよってことを覚えていながら中学校高校へ行って、やっぱり…頑張らないかんねやなぁとか、自分はこの辺かっていうのを分かればそれはそれでいいかなぁとは。
[34]	…それは若干やっぱり不利かな。競争がないんですよ。競争が無いから、競争心が無い。だって、学年に 1 人しかいないんで、1 番だから。(笑)競争心がないから、そういう面では。ある程度の競争はあった方がいいかなって。落ちこぼれもいやだけどね。
母親の孤立化	
[35]	ストレスを発散できないお母さんと言うこと。お母さん同士の仲間がいない。それが凄くね、必要やなっていう感じで。いつもこう、寄り集まったりとかの相談を受けたりはするんやけど、お母さん同士同じように子育てしてる人と友達関係を作るのが 1 番いいのかなって思って。で、そういう友達作りが下手なんで、今のお母さんはね。中に入って、一緒に遊びに行ったりとかすると、行ったり来たり出来るようになったりっていうのがあったので、やっぱりきっかけづくりって言うのもしないといけないなって言うのがあって。

表 15　教育・育児上の工夫

交流活動の機会の提供	
[36]	前は交流会とか言って、ちっちゃな校区のちっちゃな学校が交流会するだとか、あのちっさい学校と全部交流してはったんでね。だから、東能勢小学校にはしてもろたな。ほんで、中学校行っても、向こうは知ってくれてはるねん、少ないからね、4.5 人で行くわけでしょ。こっちは名前も知らないからね。子どもは転校してきたけど、向こうは知ってくれてはるから。
[37]	やっぱり、保育園行ったら人数多いところじゃないですか。幼稚園とかでも。だから自分を発揮できないっていうね。やっぱ少人数のところ行けば自分を発揮できる場所、ということで土曜保育へ行く。やっぱりそういう場は必要ですよね。
[38]	終わってからでも、野球に連れてったりとか。そういうのも居てるし。ちっちゃい子どもたちは居ないけれども、子育て支援センターとかもあるし、下で集団遊びが出来るような機会を作ってくれてるんで、行こうと思えば行けるって言うのもあるんで。行けるようになったら、十分ここでも、自然がいっぱいやし、ここの地域の宝物やから、大事にしますので…おれないことはないけどと思いますけどね。保護者がどんな想いで…自分らが引っ込まないで、外へ出ていけるかっていうのがあるかな。
保護者が行う育児上の工夫	
[39]	その…まぁ、父親の目から見て、早いか遅いか、こういう風にはなるであろうとは思ってたので、準備じゃないんですけど、考えて、息子も娘も野球をさせたんです。そう、集団の中に。それって、こっちではなくて、下の方へ、土日だけ通わして…集団と言うか友達を作ろうっていう。まぁ大きな中学校へ行っても知ってる子はいてるよっていう状況を作ってあげようと思って、まぁ、子どもに野球をさせたんですよ。まぁ…親が大変で、日曜日は朝が早いし、送り迎えもあるし、出たままになってしまうし…それは大変ですけど、まぁ、そういう準備さえしとけば小さい小学校のデメリットって、ほとんどなくなるような気がしましたね。特に息子は、女の子はやっぱり難しいですけど。

表 16　過疎地域における子どもの存在

通学路沿いの住民と児童の関係	
[40]	住民 E:小学校がある時はね、ここは田んぼだったんよ。ここで大勢はってね、ずうっと通って言ったら田んぼへまくれこむ人がこうね、幼稚園やとかね、小学校低学年の、田んぼへようここへまくれこんだ。 住民 F:ほいだほいだ、よそ見して歩いてな。おいやん送ったことあるよ、家まで。 住民 E:送ったりね、はき替えさしたりね。ふふふ。 住民 F:色んな事してたよ。おいやんが道もちょっと舗装したけどな。土の道やったしね。 住民 E:舗装はしとったけど田んぼはそのままでね。そしたら子どもは、すぐ落ちこんだ。へへへ。 住民 F:よそ見して、ほんで…まくれこんだな。 住民 E:よう田んぼ落ちて、なにしたな。必ずって言っていいくらい、毎年。そんな。
地域住民と子ども	
[41]	皆大事にしてくれます。唯一の子どもなんで。皆大事にしてくれます。皆知ってくれてます。もう子どもが居るだけで皆、喜んでくれます。出会ったら大きなったなあみたいな感じで。ちっちゃい頃から知ってるんで。もう、こないになったかあって。声掛けてくれたり、はい。それはありがたいですね。
[42]	とにかく私も子どもが出来てから、あの、話しかけてもらえることも多くなったし…みんなが子どもを可愛がってくれると言うか。ちょっと私が用事してても、誰かが見ててくれとって。あっこの子やからって言う感じで。ま、だからみんなで大きくしてくれてはるような。街にはない、いいところがありますね。
E 小へ通おうと決意したきっかけ	
[43]	この子らと近所うろちょろしてたら、やっぱり皆顔出して、おばあちゃんとか。ああ、どこの子やー、みたいな感じで。皆にこにこしてさ。あそこの小学校行ったらええわ、おばあちゃんは知らんねんけどその、休校なるとか知らんねんけど、そこやったらええでとか言って。行ったらええわって。多分、うちらがそこに通うようになって、毎日通ったらおばあちゃんその時間に顔出して行ってらっしゃいとか言ってくれるんやろうなって感じたから。なんやろ、また村の雰囲気変わるんやろうなって凄く感じたから。1 人でもそれは違うと思う。

討議

討議［　倉方先生　］

面白い研究で、感心している。単なる興味があるので質問するだけだが、このテーマへ行くときの興味として学校の方からいったのか、或いは、地域、過疎化する地域の問題で学校に焦点を当てて行ったのか。どういうルートでこのテーマに至ったのか。

回答

私自身が小規模校出身というのがまずある。自分自身の学校に対するデメリットを何も感じておらず、統廃合を進める理由として行政側が挙げているものがあまりにも実感とかけ離れているところから。

討議［　嘉名先生　］

バックグラウンドを聞くと、なるほどと思う。一方で、元気が出ないというか。何故そんな酷い統廃合をやらざるを得ないのかと言う気持ちになってしまう。勿論これから人が減っていく中でどうしていくかを考えないといけない。もう少しソフトランディング出来ている学校は無いのかと言うことや。今回は、廃校された学校を中心に調査しているが、統合された新学区としてみれば、もう少しポジティブな要素も見えてくれるのではないか。元気になる言葉が欲しい。どうしていけばいいかという展望も含めて。

回答

1 校、統合先の小学校の校長にヒアリングを行った。その小学校は廃校にあたり、2 回統廃合が行われている。統合が 1 年ずれているのは、住民の意見がばらばらになっていて、まず、先に合意がとれた学校は先に合併し、間に合わなかった方は 1 年後、と言うように地域に対して地域が納得するまでは動かないという姿勢を取っていた。従って、D 小校区の統廃合に関しては地域住民が納得した形でやっている。統合直前の 1 年生に関しては、統合先の小学校に通わせるなど、児童に対する配慮を行っており、地域と児童が上手くまわるように配慮をしていた。統廃合を行う時に、行政が一方的に話を進めるのではなく地域住民を待つ、と言う姿勢を取っていくことが大切だと思う。

討議［　佐久間先生　］

嘉名先生と同じことを考えていた。もし自分自身の体験からということであれば、統廃合の論点と言うものを、地域力の評価軸を整理しているのと別に、今挙げてもらった事例で、きちんとデータに基づいて論点と結果をまとめて、なるべくこのような取組が必要だということを、論理的に示して貰えたら全国で統廃合に悩んでいるところは沢山あるのでそこへメッセージになるのでは。

討議［　吉田先生　］

地域力の影響としてはじめに色々な指標を設定しているが、結論の中では統廃合されたところの想いもメインになっている。客観的に全てが統廃合によって失われたと考えていいのか。その指標との関係をもう少し具体的に。全てにおいて駄目だったのか、と言うところについてはどうか。

回答

全てにおいて駄目になった訳ではない。廃校となったことで自分の地域がどのような状況に置かれているのかを自覚する契機になっている。廃校になったことで、例えば先程述べた運動会が民芸大会になる、と言うような。普段は住民の中でも目立たなかった人間が動き、それに他の住民がついていくような力が発生している。統廃合はしたけれどもそれだけでは終わらないぞ、という新たな力が生まれている地域もある。これに当てはまるのは、自治組織活動、人材・活動等の地域資源である。更に、過疎化した地域では住民同士が会う機会はないが、活動が行われることで、じゃあこの日に会議をしよう、と言うような会合の場で出会う事が、コミュニティの中での人間同士の関わりの深さにも影響しているのではないか。

討議［　吉田先生　］

実際にはこういった指標が色々動いている。しかし、まとめのところに上手く表現できていないのではないか。そこをきちんと示してもらえるとイベントがある時にどのようなことが起きたのか、ということをまずは定量的に記述する。その時にどういったことが次の前向きな議論に繋がっていくのか、そのあたりを整理すれば分かりやすくなるのではないか。